
つつじヶ丘どろんこ保育園

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	インクルーシブ保育の中で、子どもたちは年齢の違いや障がいの有無に関係なく、認め合い、支え合い、学び合う心を育てています
	内容	園では、人との関わりの中での成長を重視しています。異年齢でのさまざまな生活場面の中で、年齢の違いに関係なく、年上、年下の子ども同士で思いやりや憧れの心を育み、学び合っています。そこでは年上の子どもが中心となり、子どもたち自らが遊ぶ場所や内容などを決める事で、主体性も育ちます。そして配慮の必要な子どもと一緒に過ごし、お互いに頼り合い、時にはぶつかり合い、支え合うインクルーシブ保育を行っています。特に当園には児童発達支援施設が併設され、この施設を利用する子どもが園児と一緒に過ごす事もあります。
2	タイトル	「裸足保育」「木登り」「長距離散歩」など日頃から身体機能を高める活動を積極的に行い、けがをしない強い体を育てています
	内容	「けがをしない強い体を育てる」事を園は大切にしています。そのために例えば、園庭では裸足や草履で過ごしています。裸足は指が解放され足指で地面を捉える力を育てる効果があるためです。園庭には固定遊具を設置せず、代わりに多くの樹木を植えています。その園庭の木を裸足で登ったり、築山に登りそこから滑ったりして遊んでいます。このような遊びも身体機能を高める活動となっています。また、毎日散歩に出かけています。出かける距離も少しずつ伸ばし、5歳児の遠足では往復交通機関を利用して、登山にも挑戦しています。
3	タイトル	地域とのつながりを深めるため、どろんこ会グループ共通の子育て支援活動「ちきんえつぐ」などを積極的に展開しています
	内容	園の入口に、子ども服などの無料のフリーマーケットのために「勝手かご」が置かれています。園内にある「つむぎカフェ」は誰でも利用する事ができ、園庭は地域の親子向けに毎日開放しています。「ちきんえつぐ」という地域子育て支援のプログラムがあり、園児と一緒に公園で遊ぶ「青空保育」、たき火をして魚や芋を焼いて食べる「自然食堂」、たくさんの落ち葉を園庭にまいて遊ぶ「自然学校」、ポディーペインティングなどをする「芸術学校」など、多岐にわたるプログラムが用意され、子育て支援とともに地域との関係を深めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	大規模災害への遭遇に対しては安全確保に加え、園の特性に合わせて業務の継続、復旧への計画内容の充実を期待します
	内容	大規模災害への遭遇を想定して、本部共通の「クライシスマニュアル」が整備され、系列園での一貫した対応体制が周知されています。発生直後の安否確認や被害情報の共有など、本部、園、保護者との連携体制が明記され、時間軸に沿って復旧に取りかかるまでを見据えた対応が定められています。昨今は災害対応への機運が高まっており、安全確保とともに、業務継続の見通しを立てた計画が強く求められています。園の立地や施設環境なども見込んだうえで、保育機能の継続や復旧に関する計画のさらなる充実を期待します。
2	タイトル	園の意欲的な活動によって、職員の業務負担の増加傾向が見られ、改善のさらなる工夫と継続を期待します
	内容	どろんこ会グループの統一理念、子育て目標のもと、職員は特徴ある保育活動および、新たな取り組みに対して、意欲を持って当たっています。子どもに対しても自主性を大切にしながら明るく接しています。このような中ですが、現状、業務負担がやや多くなっている様子が見られます。園でもシフト調整や個人面談での意見聴取など働きやすい環境作りのさまざまな工夫に努めています。これに加えては、例えば経営層からの対策を講じるだけでなく、業務の進め方について職員の方から提案を募ってみるなど、負担軽減への工夫を期待します。
3	タイトル	保育者個々のスキル補強について、より具体的な工夫と配慮のうえで実施する事が望まれます
	内容	園は、保護者への対応、異年齢の中で子どもへの関わり方、子どもの主体性を尊重した関わり方において、職員のスキルの差がある事を捉え、その改善を課題としています。保護者からの職員への評価は全体的に良好ですが、実際にこのスキルの差を感じ取っている様子も見られます。これについて園は、研修を行ったり、園会議での振り返りを行ったりしてスキルアップを図っています。対象者は新人やある程度の経験者など、必要に応じて選定しています。今後もさらにスキルアップへとつながる具体的な取り組みを期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	全体を見渡して安全を監視する体制の強化で、安全性の向上に努めています	
内容①	安全性の向上として、日常においての子どもへのけがを減らす事に取り組んでいます。事故防止委員会を中心にさまざまな観点から安全を確保できる環境作りについて検討し、実践につなげています。特に全体を俯瞰して見守る専門の係のスキルアップに重点を置いています。具体的には子どもの活動に潜む危険性を察知・予測するための監視のポイント、それを保育者に指示するための伝え方とタイミングなどを習得するために、ロールプレイング研修などを行っています。同時に見守り役の意義についての理解と意識付けも行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	豊富な活動で生きるために大切な、ものを見る・感じる・考える力を育てています	
内容②	どろんこ会グループの「10より100の経験」を与える方針に沿って、園では特徴的な活動を豊富に行っています。心と体を鍛える日課として裸足の園庭活動、座禅、雑巾がけなどを行っています。畑仕事で植物の生長を楽しみ、収穫した野菜を調理して食育につなげています。ヤギなど生き物の飼育で命の尊さを感じています。5歳児の山登りなど、遠足では長距離に挑戦しています。また、プリの解体ショーを行い、園庭の焚火で焼いてみんなで食べたりしています。これらの活動を通して、自分で見て感じ、考えて生きていく強い力を育てています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	食べ残しを減らす事で、持続可能な社会作りに関連する食育に取り組んでいます	
内容③	どろんこ会グループ全体としての給食の残渣減への取り組みを、集中的に実施しています。年長の5歳児が率先して行い、全体に波及させていく形を取りました。子どもたちが毎回昼食の残渣の量を計り記録する事で、食べ残しに対しての問題意識を持ってもらう事から始めました。取り組んでいるうちに子どもたちは、自分たちで適量を盛り付ける事を考え実行するに至りました。現在はそれを周囲の子どもにも働きかけるくらい、意識付けができています。次の段階として、5歳児の子どもが担った役割を、4歳児の子どもに下ろしていく予定です。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育理念や保育目標は、説明や掲示などさまざまな機会に周知、理解に努めています 保育理念は「にんげん力。育てます。」、保育目標は「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」で、どろんこ会グループ共通です。これらは職員の座右の書である保育品質マニュアルに明示され、新年度に向けての計画策定会議やキックオフミーティングなどで改めて説明し理解を深めています。また各種会議などでも折に触れ確認しています。保護者にもホームページやパンフレットなどへ掲載するとともに、入園時や保護者懇談会などで直接伝えています。多様な機会を通して、園の保育に対する考え方を周知し、その浸透に努めています。	
	施設長は統轄役として、理念に沿った保育実践を職員に伝え園運営をリードしています 園の経営層は施設長、主任、リーダーです。どろんこ会グループ共通の保育理念・方針・目標のもと、園の事業計画には園としての個別目標「見つけよう みんなそれぞれいいところ」を掲げています。経営層は、これら園の保育に対する考え方を実践していくために、日々の具体的な保育活動の方向性がそれに沿ったものになっているか、絶えず注意を払っています。特に施設長は、必要に応じてアドバイスを行う中で、職員に対して大人主導とならない事、絶えず子どもを見ながら子ども主体として関わる事を伝え、園の運営をリードしています。	
	重要案件は基本的に本部に諮り承認を受け、決定事項は確実な伝達に努めています 系列園全体に関わる案件および、高額な予算投資となる案件などについては、最終的に本部が検討し決定します。例えば、職員の人事制度、昨今のコロナ禍動向の変化への対応方針などはそれに当たります。また、事業計画や保育計画など園個別の案件も、内容により園からの起案を本部が承認しています。決定事項については基本的に職員会議で経緯も含めて説明し、議事録回覧も行い漏れなく伝えています。保護者に対してはタイミングなどに応じておたよりやアプリ配信で伝え、必要に応じてお迎え時に口頭などで重ねての確認も行っていきます。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>日常のコミュニケーションに加え、多様な機会で保護者と職員の意向を把握しています</p> <p>保護者の意見や要望などは、日ごろの送迎時やアプリの連絡帳機能によるコミュニケーションをベースに、保護者懇談会や個人面談などでも聴取しています。また毎年9月ごろに、オンラインによる利用者アンケートを行っています。このような中から、さまざまな保護者のニーズを把握し、具体的な要望や提案があれば「ご意見ご提案シート」に記載して、保育活動に生かしています。職員の意向は、年2回の目標達成確認面接や各種会議での意見聴取に加え、毎年の意向調査面談や、本部に対する意向調査アンケートなどで把握しています。</p> <p>地域の子育てや保育事業の動向を把握し、ニーズを踏まえて園の課題を抽出しています</p> <p>地域の子育て情報は、市の関係機関などから収集しています。地域の保幼小連携活動や、どろんこ会グループ共通の子育て支援活動「ちきんえっぐ」などを通して、「子育て相談が気軽にできる場を」など身近なニーズを生々の声からも把握しています。行政や社内報からも少子化の動向など多様な情報を得ています。これらから、選ばれる園としての位置付けを確立するため、当園が発達支援施設「つむぎ」を併設している事も生かし、さまざまな状況の子どもと保護者が垣根を低くして集え、身近な支援を提供できる園を目指しています。</p> <p>運営本部の方針を基に、中期計画の進捗を振り返りながら単年度計画を策定しています</p> <p>事業計画は毎年、運営本部から示されるミッションを基に、3か年の中期計画と単年度計画が策定されています。単年度計画は、基本方針、保育方針、危機管理、地域交流などの柱に沿って具体的な内容が箇条書きや表形式で見やすくわかりやすく示されています。中期計画は単年度計画策定に合わせて進捗などを振り返り、常に当年度を起点とした3か年計画として、単年度計画の中に示されています。計画の振り返りは、次年度に向けての計画策定会議で行います。保育の質の面では、全体的な計画や年間指導計画と関連付けて振り返っています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

法や規範、倫理などに対してはマニュアル、研修などを通じて遵守意識を高めています

職員としての心得は、就業規則や全職員に貸与している保育品質マニュアルなどに明記し、いつでも確認できるようになっています。これらについて新人職員は、配属前に本部の研修で学ぶほか、守秘情報の扱いについての誓約書を提出しています。また、運営本部の全体研修や毎月の園会議でも随時確認しています。毎月の「コンピテンシー」会議で、業務の質をより高める観点からも理解を深めています。ほかにもオンラインによる情報セキュリティチェックやコンプライアンスチェックなどを行って、自身を振り返り、遵守への意識を高めています。

苦情解決や虐待防止については対応の仕組みを整え、周知と実践に努めています

苦情については、解決責任者、受付担当者、第三者委員、解決の仕組みを入園のしおりに記載し、入園時、保護者に説明しています。同様の内容を「本園における苦情解決につきまして」としてアプリでも配信し、仕組みの周知と速やかな対応実践に努めています。虐待の防止については、マニュアルに沿って園会議で随時、不適切な言動の防止について話し合うとともに、職員同士でも注意を払っています。家庭での虐待が疑われる場合は施設長に報告し、園から本部の担当課長に報告・相談して指示を受けます。必要に応じて関係機関と連携しています。

地域の子育て支援活動「ちきんえっぐ」で、多彩な体験イベントを開催しています

地域の子育て支援活動「ちきんえっぐ」を、月曜日から土曜日にかけて行っています。園庭開放や子育て相談をベースに青空保育、自然食堂、芸術学校、子育てサロン等々、親子でのさまざまな体験イベントを計画しています。活動内容は、ホームページの「ちきんえっぐだより」で視覚的に紹介しています。月ごとの予定表も閲覧できます。また併設している発達支援施設「つむぎ」内に「つむぎカフェ」を開設し、療育などの合間にくつろげるカフェスペースを設けています。地域の家庭にも開放し、憩いや情報交換の場にもなっています。

カテゴリ4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>リスクに対して各種マニュアルを整備し、防止やさまざまな発生時の対応に備えています</p> <p>リスクに対しては、安全を最優先して各種の備えを行っており、衛生管理、感染症、危機管理など観点ごとにグループ共通のマニュアルが整備されています。このうち危機管理マニュアルに、見失い、置き去り、けがなど事故の防止や対策、災害発生時の対応、不審者侵入時の対応などについて明記しています。けがや災害に対しては、適切・迅速な対応が行えるようにフローチャートも作成しています。さらに、大規模な災害に遭遇した場合に対して、クライシスマニュアルも整備されています。これらは毎年全職員が再読し、理解を深めています。</p> <p>リスク対策は実践面にも力を入れ、各種訓練や対応策の検討を行っています</p> <p>リスク対策では、マニュアルの充実に加えて実践面でも力を入れています。事故防止研修、多様な事故・災害を想定した毎月の避難訓練を行うとともに、園内に事故防止委員会を置き、事故の防止策や発生時の対応などを検討しています。園児の置き去り事故などの防止のために、2名以上での人数確認を行っています。感染症対策としては、換気を重視した室内環境整備に努め、コロナ禍においても送迎場所を変える事なく蔓延が防げています。事故記録簿やインシデント報告書、ヒヤリハット報告書では再発防止についても記入し全員で共有しています。</p> <p>守秘情報の扱いに関しては、安全な管理への体制整備と実践が行われています</p> <p>個人情報などの守秘情報は、文書は施設長が書庫にて施錠管理し、デジタルデータはパスワードでアクセス制限しています。USBメモリの使用厳禁、業務使用の携帯電話は貸与のものに限定、携帯電話内の写真は1週間以内に削除等が保育品質マニュアルで定められ、職員は説明を受けたうえで誓約書を提出しています。実習生も同様です。このほか年2回の情報セキュリティチェックも行っています。ホームページへの写真掲載など、個人情報の使用については情報公開要項を定めており、保護者には具体的な内容に沿ってアプリで同意を受けています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

園の現状を踏まえ、グループ理念の実現につながる人材確保と配置に努めています

職員の採用は、全ての系列園において本部人事採用部が一括して行っています。どろんこ会グループのホームページや人材募集サイトなどで、理念や方針を打ち出して採用募集をしています。新卒者対象の説明会では、保育理念などを詳しく説明し、共感してもらえる人材を求めています。職員の異動や配置は、個人面談による意向調査と園が目指す方向性などを勘案し、本部の運営課長と相談しながら決定しています。園は、目指す保育と現組織状況を踏まえ、リーダーとして後輩の保育者を指導できる人材の充実に重点を置いて、組織作りを考えています。

職員の育成は、上司との面談をベースに相互の納得を大切に行われています

グループ統一の人事制度を定めています。等級ごとに、キャリアステージや能力水準、処遇などを設定し、職員は自身の将来展望に向かって、モチベーション豊かに研鑽を積める環境が作られています。職員の育成は目標管理型で、上司との面談をベースに目標設定、進捗の確認とアドバイス、評価が行われ、本人の納得と意欲を重視しています。研修では、グループ内での「子育て(保育)の質を上げる会議」や関連法人によるオンライン研修、新人職員が系列園に出向いてのOJT研修など、保育の質の向上や個人の希望に応じた研修環境を整えています。

職員の意欲と主体性を育む日常の配慮と環境作りで、組織力の強化に努めています

期中と期末の個人面接では進捗についてなどのコミュニケーションを取っています。その際、業務負担その他の悩みも聴取して職場環境改善への参考にし、より働きやすい職場作りとともに職員の意欲向上に努めています。さらに施設長は、組織力の強化にも力を入れています。職員の提案については、大小を問わず積極的に取り入れる環境作りで、話し合いの活性化を図っています。また各保育計画の作成や行事の計画では、トップダウンでなくリーダー層を中心として担当者のチームに一任する形をとり、チームワークの向上を図っています。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 保育内容の充実の一環として、安全面の向上に取り組みました。毎月の事故防止委員会で、当園のけが事例を振り返り、再発防止策の徹底をテーマに集中して検討しました。その内容に対して、毎月の園内会議において、全職員でさらに具体的な検討を深めました。その結果、対策として、室内においてはさまざまな配置構造などの見直し、散歩など園外活動においては、人数確認リーダーの設定とともに、路上や公園などでの安全確認のポイントの見直しを行いました。また、園庭での活動においては以前から、ビブスをつけた見守り担当者が全体を俯瞰し把握しながら、各保育者に安全指示を行っています。これを徹底するために、子ども役と先生役によるロールプレイングを行って、注意すべきポイント、声かけのタイミングなどを明確化しスキルアップを図りました。このように、毎月の会議で検討と実践、検証を繰り返しながら取り組みを続けました。結果としては、顕著な効果が見られるには至っていませんが、取り組みを通して、日常のさまざまな工夫など、職員の安全への実践意識が高まっています。事故要因の特定についてもさらに深めつつ、取り組みを継続しています。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 子どものけががなかなか減らないことから、日常のけがについては、ささいな事でも軽く見てはいけないという危機感のもとに、取り組みを始めました。まずは事故防止委員会を中心にディスカッションを行う事からスタートしました。この中で大きなポイントとして、けがが減らない原因は、専門の係を置き全体の安全を俯瞰して見守る体制があるものの、まだスキルが十分でないという事が指摘されました。例えば、危険につながる場面への気づき、予測、声かけのタイミングなどについて、甘い部分が多々ある、という事でした。ロールプレイングを行うなど、監視の仕組みの強化に取り組みましたが、係のスキル定着とバランスの良いローテーションについても今後の課題としています。園は全体的に大きな成果には至っていないと捉えています。しかし、夕方の保育を2階から1階へ移す事で、お迎えの移動時でのけがが減りました。このように、取り組みを通して安全への日常提案が活発になり、実践に生かす事例も表れています。今後も、例えば全体を見守る係においてはその日ごとに振り返りを行い、改善点を記録し次回に生かすPDCAを徹底していくなど、焦らず検討と実践を重ねていく事を期待します。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

SDGsを視野に入れた食育として、コンポストの活用による食材の循環の学びと、給食の残渣(食べ残し)を減らす事に取り組みました。コンポストについてはすでに設置しており、活用するための体制作りを行いました。調理スタッフを中心に、調理で出た野菜のくずや併設の「つむぎカフェ」で出たコーヒーのカスを使用し、肥料となる過程から子どもが食材の循環について学ぶ事を目指しました。しかし、職員内での意識付けが十分でなく、毎日のかき混ぜなどのメンテナンスを欠いたりするなど、運用自体がうまくいきませんでした。残渣については年長の5歳児と一緒に3~5歳児クラスの食べ残しの量を毎日計測する事で、意識を高めていきました。また、畑仕事でも、収穫までを経験する際に食材を育てているという意識付けに努めました。結果として年長児が自主的に提案し、「食べきれぬ量を盛る事が大切」とほかの子どもたちへも自分から働きかけるようになりました。今後は残渣への取り組みについては、5歳児だけでなく4歳児にも広げていきます。一方、コンポストについては改めて目的と意義を深く確認したうえで、適切な運用を行い、子どもの学びにつなげていきます。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

食べ残しへの取り組みは、どろんこ会グループ全体による「2022年3月からの5年間で給食残渣を50%に減らす」という取り組みです。これにコンポストの活用による食材の循環の学びを加え、園では食育と環境教育につなげる事を目指しました。残渣の減については、食べ残しに対して子ども自ら問題意識を持つ事を重視しました。そして食べ残しを減らすにはどうしたらいいかを子どもが主体的に考えていけるように、自分たちの食べ残しの実態を調べる事から取り組みました。また、畑仕事を経験し、収穫したものを食材に使う事で、食材そのものへの関心を高めるよう努めました。これによって、残渣を減らす事につながるようにとの配慮からです。取り組みを通して、収穫への関わりについては食材としての興味・関心を高めるまでには至っていませんが、みんなで食べ残しを少なくしていこうという働きかけを、子どもが主体的に行うようになりました。今後は影響力のある年長の子どもだけでなく、さらに年下の子どもも巻き込んでいく事としています。コンポストについては、運用への再チャレンジによって、食の循環だけでなく、食材への関心にもつなげていく事を期待します。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ-1の講評		
<p>ホームページやパンフレットに園が大切にしている事を写真を添えて掲載しています</p> <p>園の理念や子育て目標に加えて、特色である異年齢保育・インクルーシブ保育についてホームページやパンフレットに記載しています。年齢の違いや障がいの有無に関係なく、共に暮らし、頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を自ら選択し、行動できるように「ゾーン保育」を行っている事などが説明されています。また、発達支援事業所が併設されている事や、座禅や雑巾がけ、ヤギ・鶏の世話など成長に必要な事を園生活の中で実際に体験する事で、人を頼り、尋ねながら自分で考え行動していく大切さについても説明されています。</p> <p>園の見学は電話やホームページなどで受け付け、都合の良い日を調整し対応しています</p> <p>園の見学は電話やホームページなどで受け付けています。見学者の意向を聞いて、希望を優先して日時を決めるようにしています。園の見学時間としてはいつでも可能ですが、晴れた日の9時ごろは、子どもたちの散歩で出入口が混雑してしまう事が多いため、この時間帯は避けてもらうようにしています。見学の際は入園のしおりに基づいて園の施設や設備のほか、子育て理念、子育て目標、それらに基づく保育内容の特徴、入園した時に発生する料金などについて説明しています。また、見学者の質問にもていねいに答えています。</p> <p>行政の子育て応援サイトから、園のホームページを閲覧する事が可能です</p> <p>市の子育て応援サイトの中の子育て関連施設欄には市内の園のURLが掲載されています。ここから、園の基本情報を閲覧する事ができます。具体的には、園舎の写真とともに園の特色や大切にしている事などについて記載があります。また、園へのアクセス地図や定員、園見学はいつでも予約を受け付けている事、園にはいつでも訪問可能な地域子育てカフェがある事が記載されています。さらにここから園のホームページへのリンクも貼られていて、そこからどろんこ会グループのホームページに進み、より詳しい情報も得られます。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>パンフレットと重要事項説明書には、保育園の活動内容の詳細について記載されています</p> <p>園のパンフレットは表紙に「生活・遊び・労働を教えあう」を打ち出し、1日の生活の流れ、座禅や木登り、雑巾がけなどの活動内容、それらを通して子どもたちに育ってもらいたい6つの力「ケガをしない強い体を育てる」「自分でできることを自分でする」「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」「活動を選択し、自分で考えて行動する」「生死を知る 食の環境を知る」「感じたこと・考えたことを表現する」や、各ルール、料金などが記載されています。保護者と読み合わせのうえ重要事項説明書とともに同意を得ています。</p> <p>入園前に保護者から得た子どもの情報は大切に取り扱い、園内で共有しています</p> <p>入園前説明会の後に行われる個人面談は、園が配付した入所前児童面談票に保護者が事前に記入した内容に沿って行っています。この面談票に記載する内容は、保育園入所経験、既往歴、発育の状況、栄養、食事、食物アレルギー、言葉や、排泄の状況など保育を行うに当たって大切な内容となっています。このようにして得た子どもについての情報は、園では個人情報として厳重に管理しています。そのうえで、担任が不在の時でも子どもの状況に対応できるように、全職員が共有できる体制を整えています。</p> <p>慣れ保育や、同じ保育士が対応するなど不安軽減に努めています</p> <p>入園当初、子どもは環境の大きな違いから不安やストレスを感じる事が一般的です。子どもに安心して園で過ごしてもらえるように、保護者から希望があった場合は、入園当初は保育時間を短くして、慣れ具合を見ながら徐々に保育時間を長くしていく慣れ保育を行っています。さらに同じ保育士が担当するようにして、一人ひとりの子どもの様子を把握し、不安を軽減するように努めています。日々の子どもの様子については職員が共有し、お迎えの時に子どもの様子を口頭で伝えたり、連絡帳アプリを通したりして様子をやり取りしています。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

指導計画に基づき個々の成長を定期的に振り返り、次の計画に生かしています

子どもたちは、園内に設定された興味のあるゾーンを自分で選択して遊んでいます。自分の憧れの年長の園児がいるゾーンを選択する事もあります。また自分が世話をあげたい年下の園児がいるゾーンを選択する場合があります。子どもの意思によってできた異年齢のグループでは、そのグループの憧れの年長の園児を真似したり、小さな子どもの世話をしたりするなど、同年齢の中では見られない姿が見られます。このような中で、指導計画に基づき、子どもたちの成長する姿についてケース会議で振り返りを行い次月の計画に生かしています。

クラス懇談会や毎月の園だよりなどで、園の保育計画について説明をしています

園の全体的な計画と年間の指導計画について4月1日に保護者に配信しています。年に2回、保護者懇談会が開催され、年度初めの懇談会では園長から園の目標について説明があります。初回の懇談会では前期に各年齢の発達に応じて、どのような事ができるように目標を立てているのかについて説明があります。2回目の懇談会でも後期の目標について説明があります。具体的な取り組みについては、毎月発行される園だよりで前月の保育の様子と今月どのような取り組みをするのかについて保護者に知らせています。

発達について気になる場合は、児童発達支援施設と連携して検討する事も可能です

子ども一人ひとりの成長については、ケース検討会で振り返りを行っています。集団生活を求める年齢になっても集団に入りがたらない子どもや、人とコミュニケーションを積極的に取らないなどの気になる子ども、支援が必要だと思われる子どもについては、園に併設される児童発達支援施設と連携を取り専門的な支援を得る事も可能となっています。発達について気になる子どもがいた場合、保護者と相談のうえ、子どもの園での様子を同施設の職員に見てもらい、どのような支援が必要なのかについて検討してもらう事も可能となっています。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の取り扱いの方針について、アプリを用いて保護者から同意を得ています</p> <p>運営母体のどろんこ会グループには、保護者から預かる個人情報について、個人情報保護方針を定め、情報収集の目的と種類、情報の収集・利用について、情報の管理、および第三者への情報提供等について文書に明記されています。また子どもたちの様子を撮影した写真・動画の取り扱い方針についても説明があります。この説明を読み、保護者からはアプリで回答してもらう形で同意を得ています。園は保護者の意向に沿った個人の情報の取り扱いを重視しており、保護者の方針が変わった時にも柔軟に対応しています。</p> <p>子どもの人権の観点から、日常の生活で羞恥心に配慮し子どもにも伝えています</p> <p>おむつを替えるスペースには、ほかの人から見えないようについでが置かれています。トイレは、個室トイレが設置されていて羞恥心を感じる事がないように配慮しています。おもらしなどがあった時には、ほかの子どもから見えない場所で着替えています。夏のプールの時にも、周りに目隠しの対策を講じて園外の人目に触れる事がないように対策しています。プールが始まる前には、年長児にはプライベートゾーンの話をして、大切な体の部分は他人には見せない、触らせないと自分の体を守る事について伝えています。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重する生活の中で、不適切な対応を生まない環境を整えています</p> <p>園の「私たちが育てる6つの力」の中の「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」にのっとり、障がいの有無に関係なく異年齢同士で互いに受け止め、認め合う生活を大切にすることで、子ども一人ひとりを尊重しています。また、虐待防止については子どもの人権を守る事への意識付けに努め、年2回全職員による人権チェックを行い、虐待防止研修を実施しています。さらに、家庭での虐待防止も含めて、状況に応じて関連機関とも連携して適切な対応の仕方などについての共有に努めています。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
保育運営マニュアルは、いつでも誰でも手に取り閲覧し、確認する事が可能です 本部によるどろんこ会グループ共通の「保育運営マニュアル」が作成されています。その中の各種マニュアルについて、日常の保育の中で確認したい時にいつでも誰でも確かめる事ができるよう、職員全員に保管場所が周知できています。また、救急車要請など特に緊急を要する場合の対応手順は事務室に掲示し、戸惑う事なく迅速な対応ができるようにしています。各種マニュアルは、各園から出された意見を基に施設長と運営部で内容を見直し更新しています。なお、どろんこ会グループは本マニュアルを含めた審査によるISO9001認証を取得しています。		
職員は保育品質マニュアルを携帯し、保育の中で不明な事を随時確認できます 職員一人ひとりに「保育品質マニュアル」が貸与され常時携帯しています。写真付きで解説が記載された本マニュアルは、何か不明な事があった場合には、随時確認できる座右の書となっています。おもちゃの選び方、おむつ替えやミルクの飲ませ方、食事の時に留意する事など安全や配慮すべき事が細かく記載されています。「保育品質マニュアル」に掲載されているが、病気、衛生管理等のフローチャートは保育室内にも掲示しています。これらのマニュアルを遵守する事で、安全で一貫したサービス提供がどの園でも実施可能となっています。		
内部監査室による内部監査で、マニュアルに沿った園運営を確認しています どろんこ会グループは多数の系列園を運営しています。グループ共通の理念や方針など大切にしている考え方のもと、日々の保育について系列園共通のマニュアルを各種作成しています。それらのマニュアルが実際に園の運営に反映されているかについて年2回、内部監査が実施されます。保育内容、保育環境、健康や安全の管理などがそれぞれマニュアルに基づき行われているかについて確認し、必要があれば是正が行われます。これにより、どの園においても、グループが目指す保育運営の一貫した実践につながっています。□		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの発達を把握するとともに、子ども全体の成長も把握しています</p> <p>入所前の面談で確認した子どもの情報をスタートラインとして、子ども一人ひとりの発達状況を把握し、その内容を個人別に記録し、職員間での共有を図っています。日ごと、月ごとの子どもの様子を確かめながら、必要があれば保育計画の見直しも行います。このような一人ひとりの状況把握の一方、園は異年齢での生活を大切にしています。年齢が違う、また個性も違う、という環境で子ども同士の関わりの観点でも見守っています。違いを認め合い、受け入れる心を育む環境設定を行い、グループ全体での成長の様子も把握しています。</p> <p>ゾーン設定、異年齢の環境構成の中で、興味のある事を主体的に選んで遊んでいます</p> <p>ゾーン設定されている園内環境の中で、自分の興味のあるゾーンを、子どもが自ら選んで遊んでいます。園は子どもたちに遊びの指図は行いません。同じゾーンのグループの中には、配慮が必要な子どもがいる事もあります。また異年齢グループの中で、年長の子どもの自然にそのゾーンでの遊びの流れを大まかに決めていきます。子どもたちの中には、憧れの年長の子どものいるから同じゾーンに来る子どももいます。配慮が必要な子どもへの助けや、年下の子どもを思いやるなど、グループの中で子どもたちが助け合い、支えられながら過ごしています。</p> <p>近隣小学校を含め複数の小学校と継続して連絡を取り、子どもも職員も交流しています</p> <p>子どもたちが小学校に入学した時に、円滑に小学校生活を送る事ができるように、小学校と連携をとっています。園の隣には小学校がありますが、園は、隣の小学校以外にも子どもたちが就学する予定の複数の小学校と連絡を取り、就学に備えています。実際に小学校に足を運び校庭で遊ばせてもらったり、ランドセルを背負わせてもらったり、教室見学などもさせてもらったりしています。また園の職員も小学校の授業を見学に行き、授業の様子について理解し、就学に当たってどのような事が必要なのかを把握する機会を持っています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>連絡帳アプリや口頭で、子どもの様子を保育士が共有する体制が整えられています</p> <p>保護者は連絡帳アプリに体温など子どもの状態を記入して、園に知らせています。登園時にも、健康状態や睡眠などの生活面で通常と変わった事があった場合、口頭で知らせています。受け入れ担当者は、引継簿に聞き取った内容を記載して職員間で共有しています。子どもの様子について、いつもと大きく違った状況があった場合には、職員全員がすぐにアプリで共有できる体制をとっています。また特に口頭で共有する必要がある事については、毎日行われている昼礼で共有しています。</p> <p>トイレトレーニングは、一人ひとりの成長に合わせて家庭と連携して行っています</p> <p>トイレトレーニングは、一人ひとりの成長に合わせてスタートし、一律に行うような事はありません。例えば1歳児の午睡の後におむつが汚れていない場合がよくある子どもについては、家庭での様子についても保護者に聞き取りをしたうえでトレーニングを開始します。また、子どもの様子を見ながら「トイレに行ってみる？」などと言葉かけを行い、無理強いはしません。何度かトイレに座り排泄ができた時には、できた事を褒めて自信が持てるようにします。このような事を繰り返し、おむつからパンツへ移行するトレーニングに取り組んでいます。</p> <p>「3分間お迎え対応」で、保護者とのていねいなコミュニケーションに努めています</p> <p>園から保護者には連絡帳アプリを用いて園での食事、睡眠、排泄の様子などを伝えています。また、その日にあった出来事を写真を添えアプリ機能を利用して保護者に伝える事もあります。このほか、お迎え時には「3分間お迎え対応」という取り組みをしています。保護者に代わって子育てをした園として、子どもの活動内容や体の状態だけでなく、挑戦した事や思うとおりにいかなかった事などについての、心の状態も伝える事が重要責務と考えています。この取り組みは、どろんこ会グループの最初の園の開所以来、継続しています。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>園舎の中はゾーン保育が実施され、子どもたちが遊ぶ相手や場所を自由に選択できます</p> <p>園舎を「兄弟姉妹が共に暮らし、生活・遊び・労働を教えあう。誰もが自由に行き来できる私たちの大きな家」と位置付けています。0、1歳児と一緒に過ごす部屋、2～5歳児までの子どもたちが一緒に過ごす部屋になっています。「自分が頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を子ども自らが選択し、行動できる」ようにさまざまなゾーンが設定されています。集団に入りづらい子どもには、職員と一緒にいる事で、興味を持った活動に溶け込めるように配慮しています。子どもたちの自主性、自発性を尊重した環境を設定しています。</p> <p>散歩に出かけたり、自然豊かな園庭で活動したりして季節の変化を感じています</p> <p>7時の開園時間以降、順次登園が始まります。8時30分から活動が開始され、9時から散歩に出かけます。給食、午睡、おやつの時間以外は散歩に出かけたり、園庭で過ごしたりします。散歩では落ち葉や木の実を拾い、季節の移り変わりを感じています。園庭には固定遊具は設定されていません。その代わりに樹木が植えられて子どもたちは木登りをしています。園庭や出かけた公園で木の葉が生い茂る様子や枯れていく様子を日々感じながら遊んでいます。また、自分が見た花や葉を、園に帰ってから図鑑などで名前を調べる子どもの姿も見られます。</p> <p>異年齢での活動の中で出てきた問題を、子どもたちで解決しようとする姿が見られます</p> <p>園内の各ゾーンには異年齢の子どもたちが集まり、その中では年上の子どもが中心になって、大まかなスケジュールやルールなどの見通しを立てて行動しています。これにより3～5歳児の幼児は、日ごろから自分たちで順番を決めるなど、ルールを守る事の大切さを理解している様子が見られます。活動の中でルール上のトラブルが生じた時には、年上の子どもが年下の子どもに決まりを守る事の大切さを伝えています。大人からよりも仲間である年上の園児から教えられる事で、身近な人の言葉として伝わり、自分の気持ちを調整する力を育てています。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事については、子どもたちの興味・関心を大切に企画内容を検討しています</p> <p>園では毎年、行事についての反省と評価を行っています。そして次年度に向けた計画策定会議で、どのような行事を行うかについて職員が提案します。行事は全体的な計画の中で、日常の節目として位置付けられています。策定会議では、恒例行事という先入観にとわられる事なく、毎年白紙の状態から検討します。子どもたちの興味や関心がどこにあるのかという事を大切に、年間計画プロポーザル制度にのっとり、身に付けて欲しい力とそのために必要な経験の観点から、職員一人ひとりが行事内容についてプレゼンテーションを行います。</p> <p>行事は日常の活動の延長線として捉え、達成感を感じる行事を実施しています</p> <p>園では、生活発表会などの行事はそのための取り組みではなく、日々行っている事を発表する場と考えています。例えば運動会は「成長展」と呼び、毎日行く散歩先の公園の中で走ったり、持参したロープで遊んだりした事を「成長展」で行っています。生活発表会で歌う歌も同様です。毎月歌う歌が決まっています。子どもたちは日々歌い込んでいます。それを生活発表会で披露しています。また、散歩の距離も成長と共に長くしていき、年長児遠足では、往復電車に乗って登山に行き、園まで帰って来る体験をしています。</p> <p>保護者がどろんこサポーターズとして、園と一緒にどろんこ祭りを開催しています</p> <p>園には「どろんこサポーターズ」という制度があります。希望する保護者は登録して、夏に行われるどろんこ祭りを園と一緒に企画・準備段階から参加し開催しています。どろんこ祭りの内容は盆踊り、食べ物コーナー、製作コーナーなどがあり、保護者は店の準備や運営担当をしています。どろんこサポーターズに登録しなくても、園から発信されるおたよりやアプリのタイムラインなどで行事の様子について準備段階から知る事ができ、当日だけではなく準備の段階から情報を共有し、子どもと一緒に行事を楽しみに待つ事ができます。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>室内をゾーンで分けし、ソファを置き、玄関入口には絵本コーナーを設置しています</p> <p>異年齢のグループで活動するため、園舎内にあるそれぞれのクラスの壁は解放されています。0、1歳児のクラスは、フルオープンになる窓の側にままごとや絵合わせなどがいつでも好きな時に手に取れるように設置され、ゾーンが設定されています。3～5歳児の部屋には、おもちゃの棚が部屋の中央や壁に沿って設置されています。また所々に子ども用のソファが設置され、子どもは座って好きな絵本を読んでいます。玄関入口に丸い座卓があり、絵本を読んだりして、気持ちが落ち着いたら部屋に入るなどの工夫をしています。</p> <p>おやつ後は散歩に出たり、園内で場所を変えて遊んだりして環境を工夫しています</p> <p>おやつ後は、おやつを早く食べ終わった1歳児の半数と2歳児は近隣へ散歩に出かけています。0、1歳児の半数は夕方の時間には、日中過ごした部屋から別の場所へ移動して気分を変えて遊んでいます。3～5歳児は、暗くなる前まで園庭で遊んでいますが、それ以後は園内で過ごしています。夕方17時30分以降は防犯対策も含めて安全上の配慮から、一つの部屋で全員が合同で過ごしています。保育時間や年齢、体力の個人差などによって疲れて眠くなってしまった子どもは、布団を出して眠る事ができるようにしています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>給食、おやつは子どもが盛り付けを行い、一緒に食べたい友達と園側で食べています</p> <p>給食とおやつを食べる時は、子どもたちが一緒に食べたい年上の子どものところに行ったり、小さな子どもを誘ったりしてグループが自然にできています。給食では食べたい量を自分で盛り付けています。小さな子どもの盛り付けは大きな子どもの役割となっていて、盛り付けの担当も職員が決めるのではなく、子どもたちの中で決めています。縁側で調理員や園長を含めて職員も子どもたちの中に入って一緒に食べています。一緒に食事する事で会話が増え、家庭に近い雰囲気の中で子どもたちが楽しんで、落ち着いて食事ができる環境を作っています。</p> <p>マニュアルに基づいたアレルギー対応で、安全、安心な給食を提供しています</p> <p>アレルギーの対応を行っています。アレルギーがある場合、入園時に除去申請書を提出してもらい、調理員、園長、担任と面談を行い、除去食について説明し理解を得ています。誤配膳、誤食を防ぐために、提供する時には個別のトレーにほかの子どもとは違う色の食器に盛り付けています。調理ができた時には調理員から保育者に、除去内容を声に出して確認した後に渡しています。受け取った保育者は、テーブルに着く保育者にも声に出して確認して渡し、誤りがないようにしています。体調不良の子どもへは、無理に食べさせる事のないように配慮しています。</p> <p>毎日の畑活動で育てた野菜を給食に使用する事で、関心を持って食べています</p> <p>「子どもが畑仕事・稲刈り・ヤギや鶏の世話などの労働や、自然の中での体験を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気づくことができるように、10より100の経験を与え、子どもがしたいと思う活動を安全に行えるように見守り、支援してゆきます」を子育て目標としています。毎日の畑仕事で苗や種を植え、水をやり雑草を抜き、育てて収穫した食材が入った給食は、子どもたちに身近な食育の教材となっています。乳児も、畑の野菜を触ってみるなど全園児が食育体験をしています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>裸足保育など、健康な体作りのために工夫した取り組みが行われています</p> <p>子どもたちに育てたい6つの力の一つに「ケガをしない強い体を育てる」があります。その力を育てるための一つの取り組みとして、年間を通しての裸足保育があります。裸足は足指が解放され、足指でつかむ動きが自然にできるようになります。足指と足底筋がつながっているので足底筋が鍛えられ、幅のあるしっかりした足、踏ん張りのきく足指となり転びにくい体を作っています。毎日行う雑巾がけは転んでも体を支える事ができる徒手力を身に付け、身体機能の発達を促すリズム体操など継続的な取り組みは、けがをしない体作りに寄与しています。</p> <p>医療的なケアが必要な場合、マニュアルに基づき園内で統一した対応をしています</p> <p>アレルギーやてんかんなど医療的なケアが必要な子どもに対して、万一の時には、誰でも対応可能とするためにマニュアルに基づいた研修を行っています。園の年間保健計画に沿って、てんかんの時の応急対応、アレルギーの食事提供方法、与薬の方法について職員の研修が行われています。アレルギーや与薬の必要な場合は、医師の指示に基づき対応し、園医からもアドバイスをもらっています。急を要する時は、医療機関とスムーズな連携が取れるように、けが・事故発生時対応フローチャートがあります。</p> <p>感染症予防に努め、感染症発生時はタイムリーに保護者に知らせています</p> <p>重要事項説明書に、感染症が発生した場合の対応について記載があり、園の対応について保護者と共有しています。園では、保健計画に基づき子どもたちへ、手洗いうがい指導、歯磨き指導の保健指導が年間を通じて行われ、その様子について保護者に伝えていきます。感染症が発生した時には玄関掲示やアプリで保護者に対してタイムリーに伝えていきます。毎月発行される保健だよりの中にも、薄着に関してや免疫力を高める習慣など、健康維持のための記事などを掲載し、感染症が流行しないよう保護者に知らせています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>就労の状況など、それぞれの保護者の状況に応じて柔軟に対応しています</p> <p>保育園は7時に開園し18時から20時は延長保育の時間になっています。保育の時間については、日々連絡帳や送迎時の口頭でのやり取りなどで保護者の就労状況等に応じて柔軟に対応しています。また急な残業などでお迎え時間が遅くなる場合でも、当日のお迎え時間の変更・キャンセルはアプリの予約システムで受け付けています。お迎え時間が19時を過ぎる場合は、予約システムにて16時まで夕食の追加やキャンセルが可能です。子どもの急な発熱時には、保護者の就労等の都合を考慮して、お迎えまで保育を継続しています。</p> <p>懇談会、連絡帳、園だよりなどを通して保護者と子育てを共有しています</p> <p>年に2回保護者懇談会が開催され、園から子どもたちの成長の様子やクラスの半年ごとの目標などを伝えています。懇談会は、園と保護者の相互理解だけでなく、同じ立場の保護者同士で交流して悩みを共有できる貴重な時間にもなっています。保護者は2歳児までは連絡帳アプリで子どもの様子などを毎日、園とやり取りしています。毎月発行される園だよりは、その月の保育内容や先月の保育の様子など、写真を添えた内容となっています。</p> <p>お迎え時の「3分間お迎え対応」を行い、子どもの様子を保護者と共有しています</p> <p>保護者が長時間子どもを園に託しているという気持ちに沿い、「3分間お迎え対応」を行っています。園は、朝から夕方まで保護者に代わり子育てをしているので、一日の終わりに子どもの排泄や体調など身体の状態だけではなく、経験した事や心の状態(挑戦した事・思うとおりにできなかった事など)についても伝える事は重要な任務である、というどろんこ会グループ全体の考えのもとに行っています。このような日々の対応は保護者と子どもの成長の様子を保護者と共有し、理解を深め、相互の信頼関係も深める取り組みとなっています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」事を継続して行っています</p> <p>子育て目標の一つに「人対人コミュニケーション」を掲げ、育てたい6つの力の中に「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」があります。園外で会う人に積極的に挨拶したり、仕事をしている姿を目にしたりして、人との関わりを感じる経験を多く持つようにしています。月に1度近隣の公園で実施している「青空保育」に出向いて地域の親子と交流したり、週に1度商店街の店舗を計画的に訪問したり、多様な交流を行っています。コロナ禍で現在は中断していますが、高齢者施設との交流も何らかの形での再開を検討しています。</p> <p>子育て支援「ちきんえっぐ」に参加した親子は、園庭開放も利用し園児と交流しています</p> <p>園は地域への子育て支援「ちきんえっぐ」として、「園児との交流をする機会」「自然食堂」「自然学校」「芸術学校」「寺親屋」など多岐にわたるプログラムを行っています。「園児と交流する機会」では、交流した経験が基になって園庭開放にも参加している親子もいます。園庭で行っている焚火の体験は、家庭ではなかなかできない体験なので、多くの親子が参加する人気のプログラムです。地域の親子が園庭に遊びに来る機会は、園児にも、外部の人と交流する貴重な機会となっています。</p>		

調査対象

保育園を利用している79世帯を対象に調査を実施しました。在園児は91名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数

91

利用者家族総数(世帯)

79

共通評価項目による調査対象者数

79

共通評価項目による調査の有効回答者数

26

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

32.9

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が16人(61.5%)、「満足」が9人(34.6%)で「満足」以上の回答は合計25人(96.2%)でした。

自由意見には、「保護者よりも子どもの思いを最優先してくれ、のびのびと自由に育ててくれていると思います」「先生方が園児をしっかりと考えているのが、話をしているとわかります」「子どもの自主性に任せている雰囲気やよいです」「のびのびと育ててくれます」「理念、方針について大変共感しており、入園できて嬉しく思っています」「元気に健やかに成長していて、先生方には感謝をお伝えしたいです」「園のつくりが良く送迎時に園の様子を見ながら待てるのが気に入っています」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で96.2%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	25	1	0	0
「はい」が96.2%、「どちらともいえない」が3.8%でした。 自由意見には、「経営層は何より子どもが1番。すぐ子どもたちの成長に寄り添ってくれており、本当に感謝しています」「毎日成長を感じています」「先生方の対応にはいつも感謝をしています」「目に見えて、保育園や同園の園児たちのおかげで成長していると思う事が多く、感謝しています」「とにかく長距離を歩く事が良く、基礎体力がしっかりとついてありがたいです」「体も強くなって、言い回しや優しさなど、感心することが毎日のようにあります」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	26	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「想像以上に自由さと選択の場を与えてもらっていて、驚きました」「保育園から帰りたくなくて、泣くことがあるくらい好きなようです」「いろいろな場所に散歩に出かけ、体を動かしたり自然に触れたりすると、子どもも楽しそうなのでありがたいです」「家ではできない体験(畑仕事、焚き火など)もさせてくれるので、良い経験になっています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	22	3	1	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が11.5%、「いいえ」が3.8%でした。 自由意見には、「いつもおいしそうです。保護者も食べたくなります」「和食中心は大変感謝していますが、洋食も増やしてほしいです」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	25	1	0	0
「はい」が96.2%、「どちらともいえない」が3.8%でした。 自由意見には、「保育園が休みの日も、道行く人や働いている人に積極的に挨拶をしていて、驚かされます。とても素敵だと思います」「十分あります」「自然、動物とふれあえます」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	24	2	0	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が7.7%でした。 自由意見には、「申し訳ないと思いつつも、大変ありがたく、感謝しています」「いつも助けていただいております。ありがとうございます」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	16	9	1	0
「はい」が61.5%、「どちらともいえない」が34.6%、「いいえ」が3.8%でした。 自由意見には、「以前は休みにこちらが電話を忘れていても、園から電話がなかったのですが、ここ1年くらいで改善され、電話がくるようになりました」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	22	4	0	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.4%でした。 自由意見には、「週末に仕事がある保護者もいるので、行事が週末なのはどうかと思います。保育園に限らず、社会がです」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	23	3	0	0
「はい」が88.5%、「どちらともいえない」が11.5%でした。 自由意見には、「先生方が明るく、安心できます」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	4	0	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.4%でした。 自由意見には、「朝などに職員が、丁寧に玄関、園周りの掃除をしてくださっているので感謝を強く感じます」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	24	2	0	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が7.7%でした。 自由意見には、「みなさん本当によくくださり、感謝です」「いつも先生方の元気な笑顔で、癒されます。とてもすごいことだと思います」「保育者の皆さんは、優しいです」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	22	4	0	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.4%でした。 自由意見には、「いつも細かく見ていただいて、ありがたいです」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	19	5	0	2
「はい」が73.1%、「どちらともいえない」が19.2%、「無回答・非該当」が7.7%でした。 自由意見には、「見習いたいと思います」「未経験なので無回答ですが、きつとうまくやってくれる期待感があります」「まだトラブルを聞いていません」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	26	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「先生方は子どもたちの意見を尊重し、接してくださるので、のびのびと過ごすことができます。ありがとうございます」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	21	3	0	2
「はい」が80.8%、「どちらともいえない」が11.5%、「無回答・非該当」が7.7%でした。 自由意見には、「子どもの習い事や保護者の職業などは、あまり話してほしくないです」などの声がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	22	4	0	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が15.4%でした。 自由意見には、「保育参観日があったら嬉しいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	19	5	0	2
「はい」が73.1%、「どちらともいえない」が19.2%、「無回答・非該当」が7.7%でした。 自由意見には、「子ども同士のトラブルがあった時、話し合う機会を設けてくださって、大事にならずに済みました」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	11	9	5	1
「はい」が42.3%、「どちらともいえない」が34.6%、「いいえ」が19.2%、「無回答・非該当」が3.8%でした。 自由意見には、「役所に相談できることを知りませんでした」などの声がありました。				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証